東京新聞　2018年(平成30年)11月21日(水曜日)

文京区 液体ミルク備蓄

来春、母親らに無料配布

災害発生時に赤ちゃんを守ろうと、文京区は来春にも乳児用液体ミルクの備蓄と、母親らへの無料配布を全国に先駆けて始める。国内ではなじみが薄い液体ミルクを普段から手にすることで、災害などの非常時にも抵抗なく使ってもらう狙いがある。二〇一九年度の一般会計予算案に関連費として二百六十万円を盛り込む方針だ。（中村真暁）

液体ミルクの備蓄や配布を進める文京区の成沢広修区長（右から２人目）ら＝いずれも千代田区で

災害時に活用、哺乳瓶も備え

区では二一年に跡見学園女子、貞静学園短期、日本女子、東洋学園の区内の私立四大学を、妊産婦・乳児向け救護所に全国で初めて指定。災害時には助産師らを救護所に派遣する計画で、粉ミルクや紙おむつなどを備蓄している。

液体ミルクの活用に当たって区は、開発に取り組む江崎グリコ（大阪市）と四大学、地元の出版社フレーベル館とコンソーシアム（共同事業体）を形成。来年度から救護所の体制を強化し、災害時に乳児百六十人が一日半に渡って利用できるよう、百二十五ミリリットル入り液体ミルクパック計約二千個と使い捨て哺乳瓶を備える。

また、使った分を買い足す「ローリングストック」という手法で、乳児検診や母親学級、保育園の防災訓練などの際に液体ミルクを提供。日本栄養士会（港区）が来年一月にもまとめる自治体や医療従事者向けの活用指針を参考にし、会が作成するハンドブックも配布する。

十九日に厚生労働省で記者会見した成沢広修区長は、北海道地震の被災地で、液体ミルクに「キケン」と張り紙された例を紹介。「いざという時のために、日常的に使うことが大切。父親の育児参加を増やすにも（液体ミルクは）大切で、取り組みを全国に拡大させたい」と話した。

江崎グリコが販売予定の液体ミルクのサンプル

液体ミルクは常温で保存でき、湯に溶かす手間もなく利便性が高い。

国内では厚生労働省が八月に製造・販売を解禁。グリコは来春にも国内初の液体ミルクを製造・販売しようと、準備を進めている。

※無断転載、複製はご遠慮ください